

## 故渥美和彦先生を偲んで

瀬在 幸安

元日本大学総長、名誉教授

本年早々、Yahoo!ニュースに渥美和彦先生のご逝去の記事が掲載され、そして漫画『鉄腕アトム』の“お茶の水博士”のモデルであったことも記されていることを、元秘書から知らせを受け、驚愕し、寂しさを禁じえませんでした。

人生の空(くう)を感じることしきりであります。

渥美先生は、人工心臓の研究者として偉大な業績を残されたと同時に、あの白い顎ひげの風貌は国際的にも有名でありました。

渥美先生とは1970年代、不全心に対応するために、先生が主催された“人工心臓と補助循環懇話会”に参加して親しくさせていただき、さらに小生が発起人の“IABP研究会”にご協力を賜りましたことなどが始まりでした。

1970年代後半から、その生涯にわたり進めてこられた補助人工心臓の臨床へのアプローチのために、共同研究のお話があり、先生を強力に支える優れた研究者の藤正 巖先生、井街 宏先生らを擁してのヤギによる長期生存実験と、さらに私ども日本大学医学部第2外科学教室の学内でも高い評価を受けていた心臓外科チーム(ブタによる補助人工心臓の短期病態実験)との共同研究が発足。そして1982年8月に臨床へのスタンバイ、同10月に本邦最初の離脱に成功しました。その後、国立循環器病研究センターの高野久輝先生のグループとともに国の製造認可や健康保険の適応など、苦心した思い出が多々ありました(図1~3)。

米国で人工心臓研究者として高名なハーシーメディカルセンターのピアス教授からは、渥美先生と私どもの基礎と臨床体制が世界の中で最も優れ、理想的なチームと評価されました。

いまや天上人となられた渥美和彦先生。長き人生のなか、研究者として働き盛りの時代、公私にわたりご交誼を賜りましたことに深く感謝しております。

どうぞ安らかにお眠りください。合掌。



図1 渥美和彦先生とヤギ(右端)も一緒に(1982年)

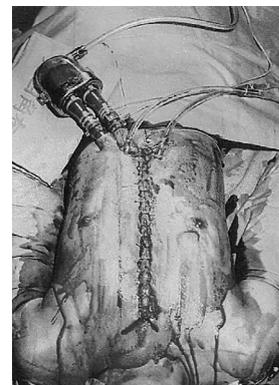


図2 本邦最初の離脱成功例(1982年10月)

**日本における人工心臓  
(補助人工心臓)の開発**

- 1982年8月 : 補助人工心臓システム完成と臨床へのスタンバイ
- 1982年10月 : 補助人工心臓の最初の離脱成功
- 1989年3月 : 補助人工心臓の製造認可申請
- 1990年1月 : 厚生省から補助人工心臓の製造認可
- 1994年4月 : 医療保険の適応

図3 日本における人工心臓(補助人工心臓)の開発